

2016年度 後期		リフレクションペーパー						
学科名	電気通信工学科							
科目名	集積回路							
科目区分	専門科目	単位数	2	開講時期	3年後期			
必修・選択の別	必修科目(組込みシステムコース)／選択科目(電気エネルギーコース)／選択必修科目(情報システムコース)							
担当者	江上 典文							
授業の到達目標(シラバスから)	<ul style="list-style-type: none"> ・半導体素子の構造や動作、違いについて説明できる。 ・CMOS論理ゲートやメモリ素子の構成と動作を説明できる。 ・集積回路の設計・製造工程、製造コストがわかる。 ・集積回路の発展に係わるムーアの法則、スケーリング則が説明できる。 ・集積回路の技術開発動向や産業としての動向が説明できる。 							
日程と内容	9/16 導入講義：授業の進め方と概要の説明、成績評価法、集積回路とは 9/23 真性半導体 9/30 不純物半導体、pn接合 10/7 ダイオード 10/14 バイポーラトランジスタ 10/21 MOSFET 10/28 CMOS論理ゲートⅠ 11/4 CMOS論理ゲートⅡ 11/11 メモリ集積回路の構造と動作 11/18 集積回路の設計 11/25 集積回路の製造(前工程) 12/2 集積回路の製造(後工程) 12/9 集積回路の製造コスト 12/10 ムーアの法則、スケーリング則 12/16 総合演習 1/24 定期試験							
成績評価基準	定期試験	70%	実技	0%	臨時試験	0%	部外評価	0%
	報告書・レポート	0%	プレゼンテーション	0%	課題	0%		
	演習	30%	計	100%				
授業到達目標の達成度	<ul style="list-style-type: none"> ・半導体素子の構造や動作、違いについて説明できる:達成 ・CMOS論理ゲートやメモリ素子の構成と動作を説明できる:達成 ・集積回路の設計・製造工程、製造高コストがわかる:達成 ・集積回路の発展に係わるムーアの法則、スケーリング則が説明できる:達成 ・集積回路の技術開発動向や産業としての動向が説明できる:達成 							
反省点	講義に興味を持たない学生や、講義についてこられない学生が散見された。							
来年度の計画	まずは、講義の重要な部分の説明をさらに平易にすることで、講義についてこられない学生の数を減らしたい。							
授業評価アンケートに対するコメント	他の項目に比べて、講義内容の理解度に関する項目のポイントが低かった。より丁寧でかつ噛み砕いた説明を心掛けたい。							
履修登録者数	41名	定期試験 受験者数	37名	合格者数	37名	合格率	100%	